

沖縄で大会開催、300人が集結

ロータス九州ブロック 意識改革を訴え

【沖縄】「つくる和、つなぐ輪、OKINAWA」をスローガンに沖縄の地にロータス関係者が集結し、全日本ロータス同友会九州ブロック（鎌田祐輔ブロック長）は7月中旬に沖縄県那覇市で「平成21年度第35回九州ブロック大会in OKINAWA」と、ブロック大会としては初めてとなるアフターマーケットの商談会「オートアフターマーケット2009沖縄」を同宜野湾市で併催した。AAM2009沖縄は地元の沖縄県自動車整備振興会なども協賛した。

「AAM2009沖縄」も

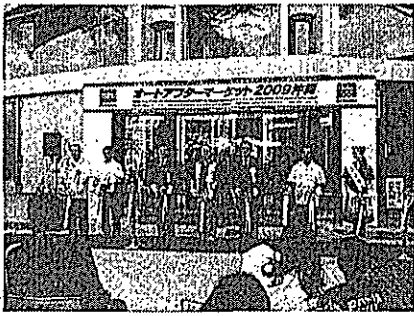
17日の大会は、ブロックの同友、来賓合わせて300人が出席した。鎌田ブロック長は「キーワードは『原点回帰』と『不易流行』。良きものは残しながらも組織として絶えずリフレッシュすることが大事。この大会を同友の意識改革のきっかけにしよう」とあいさつした。

今年は例年の記念講演を、パネルディスカッションと奥様向けのセミナーに変更、PDでは室谷貞一会長、松尾孝前

会長らをパネリストに「ロータスの未来（あす）を語る」をテーマに将来展望を話し合った。セミナーはジムキ文明堂社長の石川元璋氏が講師にテーマ「変わらなければ、続かない」を講演した。

平成21年度第35回九州ブロック大会in OKINAWA（上）とオートアフターマーケット2009沖縄

18、19日はブロック大会の歴史や沖縄の自動車業界においても初のBBBの展示商談会となるAAM2009沖縄を開催した。自動車整備機器、整備関連支援アプリケーション、リサイクルパーツ、故障診断システムなど幅広いコンテンツのアフター関連商



品を70コマ展示した。会期中は地元の関係者をはじめ1700人が来場しカーアフタービジネスの最前線に触れた。三菱の関係者による電気自動車の最新情報なども披露された。またロータスブースでは昨年に導入したOBDIIのLOSSO-9を訴求した。来年の九州ブロック開催地は熊本県で今回のAAMの結果を検証して来年の開催を検討する考えだ。